

さんのう夢ほっと・だがしや楽校 オープン！

山形県鶴岡市発

《はじめに》

2008年12月、山形県では初めての《常設型》《拠点型》あるいは《店舗型》と言われる“だがしや楽校”が鶴岡市にオープンしました。場所は、鶴岡市の中心商店街のひとつ“山王商店街”の一角でした。

今から3年前のことですが、その時のことは、今でもハッキリ憶えています。オープン当日は鶴岡へ取材に行くことはできませんでしたが、朝7時台のNHK山形からのラジオのニュースでトップに報じられたのが「鶴岡に“だがしや楽校”がオープンしました」というニュースだったからです。まさかトップで報じられるとは思いませんでしたので、ビックリしましたが、自分のことのように嬉しくなったことを憶えています。

山王商店街では、これまでも幾度にわたってお伝えしているように、毎年5月～10月の第3土曜日の夜、“山王ナイトバザール”を開催していますが、その中で“だがしや楽校”も欠かさずに開かれています。

“だがしや楽校@山王ナイトバザール”は鶴岡市民にすっかり浸透し、毎回大勢の子どもたちが集います。どうしてそんなに子どもたちに人気があるのでしょうか。いくつか要因を挙げる事ができます。

◎普段接することができない人といっしょに遊ぶことができる。例えば、大学生のお兄さん・お姉さんや鶴岡以外の人たちなど。

◎決まり切った遊びではなく、いろんな遊びを体験することができる。子ども自身が創意工夫しながら遊ぶことができる。

◎音楽から紙芝居まで、すなわち文化から芸術まで、いろんなものを見聞きし、体験することができる。

これらの要因は、子どもたちにとって、いろんな人との交流を通して、社会を勉強する場にもなっています。“だがしや楽校”が社会教育としても注目されるのは、このためです。

しかも、子どもに於ける社会教育のみならず、すべての世代に於ける社会教育としても“だがしや楽校”は注目を集めつつあります。

ところで、先にご紹介したように“山王ナイトバザール”は春から秋にかけての開催です。

そこで、“だがしや楽校だがしや倶楽部”（鶴岡市 代表：阿部等さん＝公益のふるさと創り鶴

岡・理事)では、子どもたちが外で遊ぶ機会が少なくなる冬期間も“だがしや楽校”を開くことができないものか、と考えます。

そんな折、当時、山王商店街の一角に空き店舗があったことから、その場所を利用し、毎週土曜日の午後“だがしや楽校”を開くことになったのです。

“だがしや楽校”と言いますと、「お祭りのような感じで1年に1回開かれるもの」というイメージがあります。これは《イベント型》の“だがしや楽校”と言われるものです。

しかし、“だがしや楽校”は《イベント型》だけではありません。山形市で毎月1回開かれている“楽描きだがしや楽校”は、地域の人たちによる《集い型》の“だがしや楽校”です。元々、山形市内の小さな公園で始まった“だがしや楽校”は《集い型》が原点です。

“だがしや楽校”が社会教育や生涯学習に活用されている例もあります。

そして、忘れてならないのが《常設型》《拠点型》あるいは《店舗型》(以下、《拠店型》と表記します)と言われる“だがしや楽校”です。正確に言えば、そもそもは“駄菓子屋楽校”(駄菓子屋の社会的研究)の社会的実験として始まった“だがしや楽校”は《集い型》から《イベント型》へ広がりました。それに対して“駄菓子屋楽校”は《拠店型》の“だがしや楽校”と言えます。

つまり、《拠店型》の“だがしや楽校”は、“だがしや楽校”を考える上でとても重要な存在なのです。この《拠店型》の“だがしや楽校”は、静岡市や横浜市戸塚区に見られます。

さて、2008年12月にオープンした鶴岡の《拠店型》“だがしや楽校”については、2009年1月に取材しています。この時に私が撮影した写真は、地元新聞社によるだがしや楽校だがしや倶楽部の活動を紹介する記事に掲載されるなど、いろんな場面で活用していただきました。

この《拠店型》“だがしや楽校”は2009年2月で一端終了しますが、この場所はその後も“月の山”という名称で、NPO法人公益のふるさと創り鶴岡(だがしや楽校だがしや倶楽部)のほか、山形県のNPOアドバイザー、子育て支援コーディネーターの事務所として活用されており、翌年も冬期間はここで“だがしや楽校”が開かれました。

今年(2010年)の5月20日、山王商店街に“さんのう夢ほっと”がオープンしました。

山王商店街通りでは、2009年7月より街路改良工事が行われていました。そこで、山王商店街では有志が集まり、山王まちづくり株式会社(代表:三浦山王商店街振興組合理事長)を設立します。そして、経済産業省の補助事業採択を受け、山王商店街のにぎわい創出に向けたまちづくり事業の一環として、山王日枝神社の南側に“さんのう夢ほっと”を建設したのです。

実際には、今年の1月に着工し、4月のオープンを目指しました。しかし、3月11日の東日本大震災により、1ヶ月遅れのオープンとなったのです。

建物は鉄骨2階建て約390平方メートル。駐車スペースは16台分あります。1階はパン屋さんとスイーツ屋さん。2階は飲食店です。

ちなみに、肝心の街路改良工事ですが、当初は2010年秋の完了予定でしたが、実際に完了したのは、“さんのう夢ほっと”オープンから、さらに半年遅れの2011年10月末でした。

この冬は、ここ“さんのう夢ほっと”に《拠店型》の“だがしや楽校”が開かれることになりました。それで、オープン初日の2011年12月3日、取材することにしたわけです。

2011年12月3日（土曜日）鶴岡午後からの天気：小雨時々雨 夜遅くなって風雨

【さんのう夢ほっと・だがしや楽校 オープン！】

この日の鶴岡市は、低気圧の通過で荒れ模様の天気です。しかも、オープン初日です。子どもたちは集まってくれるでしょうか。そんな心配をしながら、午後1時30分すぎ、阿部等さんと共に“さんのう夢ほっと”に着きました。



写真が“さんのう夢ほっと”です。左の写真の右奥に見える木立が山王日枝神社です。

右の写真の1階右側部分が空きスペースになったこともあり、ここで“だがしや楽校”のおみせをオープンすることにしたわけです。

入口では、強風で幟が激しくはためいています。入口の上には“だがしや楽校”の表示もありますが、ちょっと見えにくい感じもあり、阿部さんは「もう少し“だがしや楽校”らしくしたい」と語っていました。

それでは、中に入ってみましょう。



クリスマスツリー越しに、なにやら楽しい空間が広がっていそうです。さらに中に入ってみますと、早くも子どもたちが楽しそうに遊んでいます。

2008年の“だがしや楽校”オープン当初から、子どもたちといっしょに遊んでくださっている近所の女性の人たちとも再会することができました。

“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”は、毎週土曜日の午後1時から午後4時までのオープンです。ですから、オープン早々、子どもたちが集っていたのです。

でも、周りは何となく騒がしいです。おみせ内の準備作業が続いているからです。



“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”のスタッフ・Hさんは、入荷した品物のチェックを行っています。窓では、クリスマス電飾の設置が行われています。そして、子どもたちはクリスマスツリーの飾り付けを手伝っています。

普通のお店だったら、こんなことはあり得ません。準備万端整え、お客様を迎え入れるからです。でも、“だがしや楽校”は、商業店舗ではありません。「みんなが先生」である“だがしや楽校”です。“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”も、みんなでおみせを創ります。電飾も、地域の人のお手伝いで取り付けました。

準備が進んでいく中、“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”には次々に子どもたちがやって来てにぎわいを増していきました。



遊びは、プラバンアクセサリー、クリスマスリースづくり、松ぼっくりツリーづくりです。ダーツ遊びもできます。





思っていた以上に大勢の子どもたちが集い、阿部さんからは「畳のスペースを広げなければならぬ」という声が聞かれるほどでした。



どうやら“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”は、これからも、子どもたちの様子を見ながら、変化していきそうです。



“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”では、たくさん遊びますと、その分駄菓子券がたくさんもらえます。その点数によって、駄菓子屋で引き替えます。

“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”には、向かい合わせに2軒の駄菓子屋が設けられました。そこで、子どもたちが駄菓子券の点数を見ながら、好きなものを選びます。



種類がいっぱいあって、どれにしようか迷っているお子さんもいて、楽しい駄菓子選びです。



「これってお酒のおつまみじゃないの」というスタッフの方に、「これは子どもたちが大好きな“よっちゃんイカ”です」と私が説明する場面もありました。

また、山形の駄菓子屋“はじめや”では子どもたちに人気となっている“きなこ餅”のこともご存じなかったようでしたので、「当たり外れがあること。当たりは棒の先端が赤くなっていること、当たりが出たらもう1本もらえること」を説明し、「当たり付き」などと表示するようアドバイスしました。

さらに、駄菓子屋にはベーゴマもあったのですが、私が「これは六大学のベーゴマです」と紹介すると、誰もご存じなかったようで、ビックリされていました。

こんな感じで「ワイワイ・ガヤガヤ」やっている内に、閉店の午後4時をすぎて、外は薄暗くなっていました。

初日から大にぎわいで、とても楽しい“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”となりました。悪天候にもかかわらず、こんなに大勢の子どもたちが集ったということで、あらためて鶴岡では“だがしや楽校”が浸透していることを実感することができました。

それから気付いたのは、お子さんを連れて来られたおかあさんたちのほとんどは、口出しすることもなく、静かに子どもたちを見守っていたり、自分もいっしょになって遊んでいたりでいたことです。にぎやかさの中にもゆったり感があって、とても良かったです。

“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”は、来年（2012年）3月まで開かれています。

おそらく、部屋の中は、回数を重ねていく内、進化していくものと思われます。そうすれば、ますます大勢の子どもたちが集うことになるでしょう。

その名の通り、まさに夢空間である“さんのう夢ほっと・だがしや楽校”であります。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター